

令和6年度

自己点検・評価報告書

令和7年6月

公立大学法人九州歯科大学

公立大学法人九州歯科大学
令和6年度 事業に関する説明

戦略的・意欲的な取組み

実施事項	年度の実施状況等
(1) 地域歯科医療を通じて社会に貢献する歯科医療人育成	<ul style="list-style-type: none"> 附属病院における診療参加型臨床実習の充実を図るため、指導教員資格を明確化する見直しを行なった。 医科病院における臨地実習では、COVID-19禍前と同様に、北九州市立八幡病院及び製鉄記念八幡病院での実習を計画通り継続し、実習内容の改善を行なったが、今後、臨地実習の場をより拡充していくために他の医療機関との連携を検討中である。 臨床実習と臨床研修のシームレス化を図るため、令和7年度の臨床研修プログラムの内容の改編を行なった。
(2) 地域住民の健康寿命の延伸を視野に入れた多職種連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> 附属病院において、医療的ケア児への対応を含む在宅・訪問診療活動の医療及び教育への対応強化のために、口腔機能発達学分野の教授選考を実施し、あんしん科（障がい者歯科）の人員増による体制を強化した。次年度以降もあんしん科と口腔リハビリテーション科の教員の補充人事を行い引き続き一層の体制強化を図るとともに、教育の場を確保するためにも診療活動の場の拡充を図っていく。 病診連携ならびに病病連携への対応を強化するため、顎顔面外科学分野及び歯科侵襲制御学分野の教授選考を実施し、附属病院における口腔外科及び歯科麻酔科の教員の体制強化を実施した。 地域包括的システム及び多職種連携の教育を強化するため、歯学科においては地域包括医学の教育内容の見直しを実施し、口腔保健学科においては、臨地実習を含む関連科目の内容の見直し、改善を行なった。
(3) 全身の健康増進及びグローバルマインドの意識をもって次世代を担う歯科医療人の育成	<ul style="list-style-type: none"> 附属病院においては、全身疾患有する高齢有病者が多く、診療参加型臨床実習においては、有病者に対する対応について実践で学べる環境を構築している。また歯学科及び口腔保健学科の実習生ともに担当患者を配当して、歯学科は治療計画、また口腔保健学科は歯科衛生士課程の作成を通じて、患者の全身疾患に対して問題意識を持たせ、主体的に学修する教育プログラムを実施している。 ワンヘルス教育に関しては、県内大学が連携して令和7年度から開講する共通科目「ワンヘルス入門コース」への参加を決定し、本学担当分の講義動画等の教材作成を行った。本学においては次年度から1年次生を対象とした選択科目として開講を行う。 国際学生交流プログラムは、COVID-19禍前と同様に、タイのシーナカリンウィロート大学とランシット大学、また台湾の台北医科大学、高雄医科大学、及び中山医学大学との間で、歯学部学生の相互訪問による交流プログラムが実施された。次年度からは、中山医学大学との間で、歯学部学生とは別に、大学院生の交流プログラムを開始する。 国際ボランティア活動である口腔外科教員を中心に行われているベトナムにおける唇顎口蓋裂児の医療支援が、COVID-19禍で中断していたが今年度から再開され、歯学科及び口腔保健学科の学生が参加することとなった。次年度以降は、大学として資金援助も含めて国際交流プログラムの一環として対応していくことに決定した。

I 教育に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）	
1 地域社会の歯科保健医療活動に貢献できる実践的歯科医療人の育成 新たな時代で直面する社会的課題解決に寄与し、歯科口腔保健・医療活動を通して地域社会の発展に貢献できる実践的歯科医療人育成のため、アクティブラーニング及び診療参加型臨床実習を重視した教育を推進する。	

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 知識・技能・情意教育の充実と検証【1】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 3つのポリシーに資するアセスメントポリシー（学修成果の評価の方針）を構築し、アウトカム基盤型教育における達成度評価を実施し、教育内容について検証する。	アセスメントポリシーの構築	令和6年度アセスメントポリシーの構築	アセスメントポリシーの原案を作成した。FDにおいて、アセスメントポリシーについての説明を行った。
		令和7年度からアセスメントポリシーに従い到底度評価実施、以降毎年度検証、見直し実施	構築したアセスメントポリシーにより、達成度評価を実施できる科目の評価に対して、実施の可否を検討している。
	（歯学科）共用試験（CBT、OSCE）合格率	毎年度95%以上	未達成：90.7%（107名中97名合格）
	（歯学科）診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-CC PX）合格率	毎年度100%	達成：100%
	（歯学科）歯科医師国家試験最低修業年限（6年間）合格者率	毎年度70%以上	達成：78.9%（令和6年度卒業生）
イ 令和6年度入学生から、令和4年度改訂版「モデル・コア・カリキュラム」改訂に伴う歯学科教育プログラムへの対応	「モデル・コア・カリキュラム」改訂に伴う歯学科教育プログラムへの対応	令和6年度の歯学科1年次生より「モデル・コア・カリキュラム」改訂に基づく歯学科教育プログラムを構築・開始	対応確認済
		期間の末の令和11年度に最終学年における学修成果を検証し、歯学科教育プログラム全般を改善する	歯学生共用試験・卒業試験等の成績をもとに学修成果の検証実施を予定。
	学生の成績 平均GPA	毎年度2.5以上（満点4）	令和6年度 学部全体 2.62（歯 2.56, 口保 2.92）達成

ウ 高い国家試験合格率を維持するため、IR室を教職協働の組織に再編し、入学者選抜から在学中の成績全般の管理分析を迅速に行える体制を強化する。	成績データ等解析のためのIR組織の再編	令和6年度再編実施	「九州歯科大学教育IRセンター設置要領」を制定した。これまでの関連メンバーを中心に組織としての活動基盤を整備中。
		令和7年度より再編組織による活動開始、毎年度活動内容を検証、見直し実施	令和7年度より現体制で活動しながら、活動内容の検証と見直しを実施する。
エ アクティブラーニングを促進するため、LMS (Learning managementsystem) を活用した双向型教育プログラムを充実させ、教育効果を検証する。	LMSを活用した教育プログラムの検証	毎年度効果を検証	年度末学生アンケート実施済。オンデマンド授業実施科目の成績推移と併せて検証中。
オ デジタル学修コンテンツを活用したアクティブラーニングのための臨床教育プログラムを構築する。	デジタル学修コンテンツを活用した臨床教育プログラムの構築	令和6年度プログラムの作成	既存のコンテンツの状況確認中
		令和7年度より運用開始し、順次拡大	すでに部分運用されているが状況確認中。
		令和10年度臨床実習を含む、全ての臨床系実習科目において運用開始	上記を踏まえて必要なコンテンツのリストアップ作業の予定。
カ 教育におけるDXを推進・支援するため、ICT活用部会を基盤とした教職協働の組織を構築する。	教育におけるDXを推進支援するための組織の構築	令和6年度新組織の検討	ICT活用部会・学生課・企画情報課で連携しながら活動中ながら組織としての整理は未達。
		令和7年度新組織体の構築	令和7年度中に新組織構築に向けて上記メンバーで活動中。
		令和8年度より新組織体による活動開始、毎年度活動実績を検証、見直し実施	令和8年度を目処に活動開始予定。
	教育のDXに関する学生の満足度調査での満足している学生の割合	構築年度以降、毎年度80%以上	年度末の学生アンケートに該当項目を新組織構築前から設定し、効果の変化も確認する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2) 大学院教育における厳正な評価の実施と検証 【2】	昨年度に引き続き、本学で確立された厳正な評価システムに則り、大学院教育の評価と検証を行った。また、先の認証評価の指摘に従い、大幅な大学院の科目改定を行った。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 3つのポリシーの観点から、適正な大学院教育を展開し、教育成果を検証する。	大学院定員充足率	毎年度70%以上	収容定員106名に対し、今年在籍している大学院生の人数は87名であり、充足率は82%と目標は達成できた。
イ 学位授与の基準を検証し、適正な学位（修士・博士）の授与体制を確立する。	最低修業年限（修士課程2年、博士課程4年）学位取得者率	毎年度70%以上	65% 今年度の最低修業年限での学位取得者数は20名中、13名であり、目標を達成することができなかった。

項目別の状況（中期計画項目）	
2 教育の質的改善を図るための教員の教育能力向上 教育の質的改善を図るため、従来のファカルティ・ディベロップメント（FD）のあり方を見直し、個々の教員の教育能力の開発や質の向上に結びつくFDプログラムを構築する。また、教員の教育能力の評価について、学生の学修成果（アウトカム）の到達度を基盤とした評価システムに改編し、検証する。	

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
（1）FDによる教育能力の向上と有効性の検証【3】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
教育能力の向上に結びつく教育方法の普及のため、FDプログラムを再編し、その効果を検証する。	FDプログラムの再編	令和6年度再編検討	ICT活用を進めるため初めての試みとして、令和6年度は1ヵ月おきにオンラインワークショップ形式の研修を2回実施した。
	FDの参加率	毎年度95%以上	勤務時間内に診療業務、学生教育に支障が出ないよう基本的な開催形式は現状のままとするが、常に新しい研修内容を検討していく。
	アンケートで成果があったと回答した者の割合	毎年度80%以上	未達成：88.8%（平均） 達成：97.5%（業務の改善につながった・つながる見込みがある）

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2) 教育能力向上に資する教育業績評価の改編 【4】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
教育業績評価について、学生の成績等の学修成果（アウトカム）の到達度を基盤とした評価システムに改編し、その効果を検証する。	教育能力評価の方法の改編	令和6年度にアセスメントポリシーに従った到達度評価の構築、改編作業実施	アセスメントポリシーに沿って学生の学修達成度を測る指標項目を設定した。FDにおいて説明を行い、教員へ各講義の効果についてPDCAの実施を依頼した。
	学生による授業評価の平均	毎年度評価4以上（満点5）	令和7年度からの実施に向けて、学生の学修効果を測る指標項目の設定した。
	同僚による授業評価を受けた教員の割合	毎年度授業担当者の90%以上	達成：学生による授業評価の平均4.3（令和6年度） 未達成：令和6年度は58.9%（63/107人） ※分母はR7.1.1現在の教員数

項目別の状況（中期計画項目）

3 国際的な保健医療活動に寄与する人材の育成

国際的な視点で、保健医療活動に寄与する人材を育成するため、国外の大学等との連携による多様な交流活動等を通じて国際化に対応した教育を推進する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
（1）国際教育交流プログラムの充実【5】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 学生海外短期派遣プログラムを拡充する。	学生海外短期派遣プログラム派遣学生数	毎年度10名以上	達成：令和6年度は合計11名 歯学科4年：4名 歯学科3年：4名 口腔保健学科3年：3名
イ 海外連携大学からの学生受入プログラムを拡充する。	海外学生受入プログラム参加大学数	毎年度2校以上	達成：令和6年度は、5大学受入。 ・高雄医学大学（2名） ・台北医学大学（3名） ・シーナカリンウィロート大学（5名） ・ランシット大学（4名） ・中山医学大学（3名）
ウ 受入留学生を拡充する。	大学全体の受入留学生数	期間中6名	令和6年度在籍者5名

項目別の状況（中期計画項目）

4 大学が求める資質・能力を持った学修意欲が高い学生の確保

「学力の三要素」を適正に評価し、歯科保健医療活動を通じて、社会に貢献する素養を有する多様な人材を確保する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) アドミッションポリシーに基づいた入学者選抜の実施と検証 【6】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア アドミッションポリシーに適合した、優秀かつ多様な人材を確保していくなかで、学力の3要素の視点に立ち、多様な入学者選抜によって適正な人材が入学しているかを検証する。	入学者選抜方法の検証	令和6年度における検証の結果によっては、令和9年度からの見直しを実施する	令和6年度は以下について種々のデータ分析結果をもとに検討した。 ①総合型選抜の集団面接の現状と代替方法 ②共通テストへの「情報」科の組入 ③総合型・学校推薦型選抜の基準点への段階表示の導入 ④私費外国人留学生入試における個別試験を一般選抜と同一問題で同時実施とすることおよび合格基準の設定このうち④の導入を決定した。
イ 入学者選抜のデータと入学後の成績について、IR室を中心に組織的に分析を行い、入学者選抜方法を改善する。	入学者選抜における入学者の成績の検証	毎年度実施・検証	令和5年度までの入試成績と入学後の成績についてIR室を中心に分析を行い、特に総合型選抜の集団面接について検討した。
ウ オープンキャンパス、高校への広報活動、大学入試説明会等の広報活動におけるDXの活用を推進し、志願倍率を安定維持させる。	歯学部の志願倍率	毎年度2倍以上	達成：令和7年度入試の実施方法別の志願倍率は全て2倍以上だった。 ・総合型（歯）7.47倍、（口保）2.67倍 ・学校推薦型（歯）3.40倍、（口保）2.33倍 ・一般（歯）4.7倍、（口保）2.6倍 ※歯学科の総合型選抜志願者数は過去最高

項目別の状況（中期計画項目）

5 学生が健やかで充実した学生生活を送るための学生支援体制の充実・強化
教職員が一体となって、学生の視点に立ち、より質の高い学生支援体制を構築する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 学修及び経済的支援体制の充実【7】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 学生の修学に係る問題に対応するため、学年主任・副任・助言教員による支援体制の他、学生支援対策会議及び障がい学生支援会議を中心に教職協働の組織での取組を充実させる。	修学支援体制の充実	毎年度検証・見直し	・保護者面談において、複数人による対応と経験の機会提供のため、副任も同席して実施した。 ・学年主任会議と学生支援対策会議の役割を整理し、随時開催となっていた学生支援対策会議を改組して学生支援対策委員会として毎月開催することで学生の心身の健康維持のため教職協働の取組を充実させた。
イ 学生相談業務を充実させるため、学生相談システムのDXを推進し、学生のニーズに沿った教職協働の支援体制を充実させる。	学生相談システムのDXの推進	毎年度実施・検証	学生相談システムはMoodleをベースの学生用事務局ポータル内で随時改善を進めている。欠席時の健康状況報告システムが機能している。
ウ 高等教育の修学支援新制度に基づく授業料減免、分納制度の活用に対する支援を強化する。	授業料減免、分納制度の活用の支援強化	毎年度実施・検証	令和6年度授業料減免 合計72件 修学支援新制度（学部生）68件 独自制度（大学院生）4件 令和6年度授業料分納 合計4件

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2) キャリア支援体制の充実 【8】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 就職支援のDXの促進により学生の利便性を向上させるとともに、教職協働の就職支援体制を強化し、歯学科及び口腔保健学科のキャリア支援を充実させる。	(歯学科) 歯科医師臨床研修マッチング率	毎年度100%	達成：100%
	(口腔保健学科) 就職率	毎年度100%	達成：100%
イ 口腔保健学科では、歯科衛生士としての職域に留まらない、幅広い分野で活躍できるキャリアパスを提案し、就職先の開拓をはじめとした就職支援を行う。	(口腔保健学科) 就職率 (再掲)	毎年度100%	達成：100%
ウ 卒業生を対象としたアンケート調査の実施により、キャリア・就職支援体制を検証する。	卒業生に対するアンケート調査結果の検証	令和6年度から 調査方法の検討開始	令和6年度はこれまで同様に実施。
		令和7年度から 調査実施し、毎年度検証	令和7年度末の実施に向けて準備中。

II 研究に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）	
1 歯科医学研究の推進 地域の課題、ニーズに対応した研究、歯科保健医療の将来を見据えた先進的な研究に重点的に取り組み、その成果を広く社会に発信し還元する。	

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
（1）歯科医療及び歯科医学を支える研究の強化 【9】	研究環境を改善するために、研究センターとURAを次年度から設立することを決定し、次年度から運営開始できるように準備をすることができた。より適正適切な動物実験を実施するために、本学動物実験の外部検証を次年度に受審することを決定し、それに向けた準備を開始することができた。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
大学の理念及び教育研究目標と合致した研究に加え、歯科医療の発展に寄与する研究を推進する。	地域密着型の研究プロジェクト数	毎年度1プロジェクト以上	2プロジェクト 複数件の実施を行うことができ、目標は達成された。
	論文数（英文誌）	毎年度80編以上	達成：83編以上

項目別の状況（中期計画項目）

2 研究活動を活性化させるための研究資金の獲得拡大

研究活動を更に活性化させるため、教員の研究意欲及び研究水準の向上等につながる支援体制の充実・強化を推進するとともに、国内外の大学、企業、研究機関との連携強化や外部研究資金の獲得拡大に取り組む。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 外部研究資金の獲得【10】	外部研究資金を増加させるために、研究センターとURAを次年度以降に運用する準備をすることができた。また、PARKSやWAT-NeWおよび北九州市SDGsスタートアップエコシステムコンソーシアムに参加を果たすことができた。次年度以降、これらの枠組みを利用した外部研究資金の獲得に向けた用意ができた。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
分野を超えた研究体制のもとで外部研究資金を獲得する。	外部研究資金応募、獲得件数	政府省庁等が公募する大型プロジェクトの獲得1件（期間中） 科学研究費応募件数60件、獲得件数60件（年間） 受託研究・共同研究、奨学寄付金・研究助成金受入140件以上（期間中）	0件（2025年2月末現在） 政府省庁等が公募する補助金で令和7年度の応募可能なプロジェクトの情報収集を行なっている。 応募件数90件、獲得件数60件（年間）であり、目的を達成することができた。さらに、挑戦的研究、国際共同加速基金、二国間交流事業など特色ある研究費が獲得できた。 今年度の実施実績は13件と目標を下回るペースであった。

項目別の状況（中期計画項目）

3 國際化に対応した研究の推進

国際的研究活動を活性化させるため、研究分野における国外の大学等との連携を推進する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
（1）国際共同研究体制の充実【11】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
教員及び大学院生等の海外出張及び海外留学、又は留学生の受け入れ等を通じた国際共同研究活動を推進する。	国際共同研究活動の実績	毎年度5件以上	達成：9件

III 地域貢献に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）	
1 県民の健康保持増進につながる取組の推進 地域のシンクタンクとして地域住民に対する情報発信、また歯科医療従事者等の医療関係者に対する歯科口腔保健・医療に関する学びの支援を通して、地域住民の健康保持増進に寄与する。	

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 自治体、地域の医療、福祉、教育等の機関及び関係団体、企業等との連携強化による社会貢献活動の推進【12】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 自治体等との連携により、公開講座等で、地域住民のニーズに応じた歯科口腔保健等に関する情報提供を実施し、県民の健康保持増進につながる生涯学習等の取組を支援する。	公開講座等の実施回数	毎年度1回以上	3回実施した。 ・歯大祭公開講座（10月27日） 「第3の歯？インプラント治療の最前線」 ・西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座（11月2日） 「全身の健康はお口から」 ・北九州市民カレッジ（2月27日） 「人の性格は健康にどのくらい影響するのか」
イ 地域のシンクタンクとして、自治体が実施する地域保健活動を支援し、連携を強化する。	支援活動事業数	毎年度1事業以上	1事業 北九州市口腔保健推進会議のメンバーとして、歯科口腔保健事業、オーラルヘルス推進事業や生涯を通じた歯科口腔保健の推進について北九州市と連携して地域保健活動を支援した。
ウ 地域の中学校・高等学校の生徒を対象とした歯科口腔保健・医療に関する模擬講義を通して高大連携活動を推進するとともに、次世代を担う青少年の口腔保健に対する学びを支援する。	模擬講義等の実施回数	毎年度5回以上	未達成：4回（職業紹介の出張授業は除く）
エ 歯科医療関係団体等と連携して、地域歯科医療を担う人材育成のためのリカレント教育を支援する。	リカレント教育支援プログラム数	毎年度1プログラム以上	1プログラム 歯科衛生士に対するリカレント教育プログラムの構築を行い、各歯科医師会や衛生士会に協力要請の声掛けを行った。

IV 業務運営及び財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）	
1 戰略的な大学運営の推進、検証及び改善	<p>理事長のリーダーシップのもと、安定した経営状況を保ち、大学の特色を生かした戦略的・機動的な大学運営を推進して社会に貢献する実践的な歯科医療人を育成する。大学運営について、教育研究組織、運営等の検証・改善を内部質保証のもとで行い、専門性を有する多様な人材の確保・育成を行うとともに、他大学と連携した多様な教育研究を効果的に推進する。</p> <p>さらに、ガバナンスを強化し社会的信頼性を担保するために、内部統制システムの不断の改善と教職員のコンプライアンスの徹底を推進する。</p>

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 理事長のリーダーシップによる明確なガバナンス体制のもとでの戦略的な大学運営の推進【13】	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な大学運営を戦略的に行なっていくため、将来の大学運営を担っているであろう中堅若手教員を中心に議論を行い、12年後の大学のあり方を目指した「九州歯科大学長期ビジョン2035」の策定を行なった。また附属病院の経営の改善と安定を図るため、実現可能な具体的な数値目標と方略を盛り込んだ「九州歯科大学附属病院経営改善プラン」の策定を行なった。 ・大学運営における内部質保証の新たな体制を構築し、第4期中期計画、分野別認証評価及び機関別認証評価に基づく自己点検評価を実施し、その結果を内部質保証委員会で検証を行った。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 限られた教育資源の克服に向けた他大学との多様な教育連携を推進する。	他大学との連携を推進する組織を構築し、連携活動を展開	期中の2年間で構築し、その後、連携活動を展開	北九州市内の北九州市立大学、九州工業大学、産業医科大学における教育連携について意見交換を行った。
イ 内部質保証委員会による学内体制の自己点検・評価に対する審査を実施し、本計画に掲げる教学システム及び大学運営に関する達成目標に係る到達度等を検証する。	法人理事会と大学部局との戦略的・機動的な運営会議の開催	毎月開催	大学教職連携会議（USC会議）を毎月第2週水曜日に開催し、大学運営に関わる諸問題に関する情報共有及びそれらの対応について検討を行った。
	内部質保証委員会の開催	毎年度内部質保証委員会において評価表等による分析を行い、適正な改善を実施する	内部質保証委員会は年度末の3月に開催し、第4期中期計画の進捗状況及び機関別認証評価ならびに分野別認証評価に基づく自己点検評価を実施し、その結果について検証を行った。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2) 内部統制システムの不断の改善とコンプライアンスの強化充実及び周知徹底【14】	今年度より公立大学協会が策定したガバナンスコードに基づく自己点検評価を実施し、内部統制推進委員会においてその結果を検証し、それを公表した上で、改善を図っていくこととした。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 公立大学法人九州歯科大学内部統制規則のもと、内部統制推進委員会が行っている大学運営検証作業の実施体制を強化する。	内部統制推進委員会による大学運営の検証体制の強化	毎年度検証	内部統制推進委員会は年度末の3月に開催した。今年度は公立大学協会が策定したガバナンスコードに基づき検証評価を行い、大学運営における検証体制の強化を実施した。尚、ガバナンスコードによる評価結果は、本学ホームページ上で公表を行った。
イ コンプライアンスの強化充実と周知徹底のためのSDを実施する。	コンプライアンスの強化充実と周知徹底のためのSDの実施	毎年度5回以上	5回

項目別の状況（中期計画項目）

2 業務運営の効率化と財政基盤の強化

業務のDXの推進とSDの実施による教職員の業務遂行能力向上により、業務運営を効率化する。また外部資金の獲得により自己収入を増加させ、財政基盤の強化に取り組む。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 業務のDXの推進と業務遂行能力向上のためのSDの実施【15】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 業務のDXの推進とともに、情報セキュリティ対策を充実させる。	DXの推進と情報セキュリティ対策の実施	令和6年度から2年間でDX推進業務改善計画の立案 令和8年度から令和11年度末までに計画を段階的に実施	附属病院で学生カルテの企画・作成を行った。またデジタル技工に関して委員会を立ち上げ計画策定を行った。「作って教材」のコンテンツ移行を九州工業大学と共同研究として実施した。 情報セキュリティ委員会及び情報セキュリティ運営室定期会議を定期に開催し、本学のセキュリティに関する問題点の対応を行った。
イ 業務遂行能力の向上のためのSDを実施する。	業務遂行能力向上のためのSDの実施	毎年度5回以上	6回

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2) 科研費等の外部資金獲得による財政基盤の強化 【16】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
科研費等の外部資金の獲得による自己収入を増加させる。	外部資金獲得額	科学研究費交付額100,000千円 (年間) 受託研究・共同研究費、奨学寄附金・研究助成金受入額 160,000千円 (期間中)	達成：令和6年度：135,270,000円 ※補助期間全体の金額を計上。新規採択課題のみ、継続課題は含まない 令和6年度：科研以外の受託研究・共同研究費・奨学寄付金・研究助成金受入額（内訳不要） 28,773,400円

項目別の状況（中期計画項目）

3 地域の歯科医療の拠点としての病院機能の充実・強化

歯科口腔保健・医療の現場でも、高齢社会を迎え、地域の医療従事者等との緊密な連携のもと、学童期から成人期、高齢者に至るまでのライフステージに応じた包括的歯科保健医療体制の構築など、地域ニーズへの適切な対応を行うことが求められている。この視点に立った経営を推進し、地域住民の満足度調査を行う。加えて、適正な収入を確保することにより、安定的な病院経営を行う。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 病院・歯科診療所との連携の強化【17】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 歯学部附属病院の機能を補完する地域中核病院との連携体制を強化する。	中核病院との連携体制の強化	これまでの地域連携による成果を検証し、第4期中期計画6年間における強化プランを作成し、期間の末までに実行	地方独立行政法人下関市立市民病院と連携協定を交わし、周術期における口腔機能管理や歯科麻酔等の実践・教育・研究面において相互が緊密に連携する準備を進めた。
イ 近隣の医療機関・歯科診療所との連携強化のための地域医療連携室の活動を強化する。	連携室経由の新患紹介患者数と紹介率	毎年度5,000名、紹介率50%	令和6年度 連携室経由の新患紹介患者数：5,974名 紹介率：77.1%

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2) 在宅高齢者・医療的ケア児など地域のスペシャルニーズへの対応の強化【18】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
摂食嚥下リハビリを中心とした専門的口腔健康管理や医療的ケア児の支援といった地域のスペシャルニーズに対応するための体制を強化するため、診療科を再編する。	地域のスペシャルニーズに対応するための診療科の再編	期初2年で体制を整える	あんしん科について、病院長補佐を中心に麻酔体制と診療体制の構築を行った。
		期中2年で診療の実績を作る	N
		期末2年で教育への展開を完了	N

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(3) 経営状態の恒常的な把握・分析による適正な収入の確保【19】	ビジネスインテリジェントを活用した仕組みにより、日次収入把握から的確な分析により各診療科の目標設定が行えるようになり働き方の目指す方向を示すことができるようになった。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア 診療収入をタイムリーに把握・分析し、患者の満足度を向上させる。	患者の満足度の分析及び診療収入のタイムリーナ把握・分析	期初1年で病院情報システムを構築し、病院全体で共有、次年度から自己収入の目標値を設定	日次に附属病院の収入を把握できるようになり、それらのデータを基に2025年モデルは各診療科に配賦できるようになった。
イ 附属病院が医療病院であることを鑑み、診療・診断機器の更新を見据えた適正な収入を確保する。	適正な収入の確保	歯学科及び口腔保健学科の教育を充実するため安定した患者数を確保し、電子カルテデータをもって収入の分析を行い、その収入想定額を科学的に検証し、毎年度適正な収入を確保する	附属病院の収入予算12億円に対して、最終的には12億円には届かなかった。

Ⅴ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）	
1 自己点検・評価等による大学業務の改善 自己点検・評価及び大学機関別認証評価、歯学教育評価及び福岡県公立大学法人評価委員会による評価結果を反映させた、組織的な大学業務の改善を推進する。	

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 自己点検・評価及び第三者評価結果を反映させた大学業務の継続的改善【20】	毎年度、第4期中期計画、分野別認証評価及び機関別認証評価に基づく自己点検評価を実施し、その結果を内部質保証委員会で検証し、大学業務の継続的改善を図っていく体制を整備した。尚、検証結果に関しては、全教職員を対象とした全学説明会ならびに本学ホームページ上で公表を行い学内外に周知することとした。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
教学システム及び大学運営の自己点検・評価の実施結果及び第三者評価の評価結果を学内に周知するとともに、PDCAサイクルを意識した組織的かつ計画的な大学業務の改善を継続的に実施する。	教学システム及び大学運営の自己点検・評価の実施結果及び第三者評価の評価結果の学内周知と大学業務改善	毎年度実施	<ul style="list-style-type: none"> ・第4期中期計画に基づく今年度の進捗状況は、概ね計画通りで良好であった。 ・歯学分野別認証評価に基づき、次年度の評価年度に向けて、今年度は問題点の抽出を行い、改善を行なった。 ・機関別認証評価は、第4期の評価項目はまだ明確に示されていないが、第3期の評価項目に従い、自己点検評価を実施した。

項目別の状況（中期計画項目）

2 情報公開・情報発信の推進

九州歯科大学憲章のもとに行う教育・研究及び歯科保健医療活動等の積極的な情報公開・情報発信を推進する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) ホームページをはじめとした様々な媒体を活用した国内外への情報公開・情報発信の推進【21】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	年度の評価指標の達成状況等
ア ホームページによる教育・研究及び歯科保健医療活動等の国内外への情報公開・情報発信を行う。	ホームページによる教育・研究及び歯科保健医療活動等の国内外への情報公開・情報発信	毎年度実施	教育・研究活動・歯科保健医療活動をHPで情報公開・発信を行った。
イ 本学の特色や学内の様々な活動情報を広く発信するため、広報誌を発行するとともに、配布先からの評価を収集し、広報誌をアップデートする。	広報誌の定期的な発行及び配布先からの評価収集	毎年度1回発行及び評価収集	<ul style="list-style-type: none"> • Platys 7号を発刊した（2024年4月）。 • 新入生を対象としたアンケート調査を実施し、過去4年分の結果を分析し公表した。 • 新入生のアンケート調査により、WEB広報活動の影響が高いことが判明したため、WEB広報として、大学の動画に加えて歯学科、口腔保健学科それぞれの紹介動画を掲載した。

特記事項

【今年度実績】

- ・大学運営の持続性を確保するため、12年後の2035年の大学のあり方を目指した「九州歯科大学長期ビジョン2035」及び、附属病院の経営改善と安定を目指すための「九州歯科大学附属病院改善プラン」の策定を行なった。
- ・地域貢献の一環として、歯科衛生士の慢性的な不足に対する対応として、次年度から実施を目指しに、附属病院におけるJTを中心とした歯科衛生士の復職支援プログラムを新たに構築した。
- ・国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）によるオール九州・沖縄圏一体でアジアとつながるスタートアップ・エコシステムを創出することを目指し、九州・沖縄の18大学と株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ（FVP）と九大OIP株式会社により設立されたPlatform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem（PARKS パークス）への次年度からの参画を決定して、大学院教育におけるアントレプレナーシップ教育の導入等参画するための取り組みを実施した。